

<https://www.kinki-sha.org/>



近畿学校保健学会通信

No.160

2021年10月13日発行
近畿学校保健学会事務局
〒570-8555 大阪府守口市藤田町6-21-57
大阪国際大学 後和研究室
TEL : 06-6902-0791 FAX : 06-6902-8894
Mail : kinkigakkohokengakkai@gmail.com
振替口座 00940-5-181826

目 次

第68回近畿学校保健学会報告

1. 第68回近畿学校保健学会を終えて	 2
2. 教育講演報告	 3
3. 一般演題報告	 3
4. 特別講演報告	 7
5. シンポジウム報告	 7
6. 2021年度近畿学校保健学会奨励賞	 9
7. 学会印象記	 9
2021年度近畿学校保健学会奨励賞 抄録	 11
2021年度近畿学校保健学会評議員会・総会 報告	 12
2021年度第1回近畿学校保健学会幹事会議事録	 14
編集後記	 15

年会費の納入のお願い

2021年度は役員改選の年にあたり、来年の2月に役員選挙が行われます。選挙権の有資格者は2021年度の会費を納入された会員で、被選挙権の有資格者は2019～2021年度の会費を納入された会員となっております。今年度の会費が未納の会員におかれましては、必ず12月末までに会費を納入していただきますようお願いいたします。

第 68 回近畿学校保健学会（2021 年度年次学会）報告

1. 第 68 回近畿学校保健学会を終えて

学会長 高田 恵美子
(畿央大学 教育学部)

第 68 回近畿学校保健学会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、本学会で初となる Web 開催とし、2021 年 6 月 19 日に畿央大学より配信いたしました。事前参加申し込み者と招待者で計 114 名にご参加いただき、皆様のご協力により無事終了することができました。途中、音声の不具合や画面切り替えに時間がかかるなど運営において大変ご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

しかしながら、事後のアンケートでは、大会の満足度や仕事・研究への有用性などで高い評価をいただくとともに、実行委員をねぎらう温かい言葉を多数いただきました。畿央大学のキャッチフレーズ「やさしさをチカラに変える」をお伝えしてまいりましたが、本大会を通じて皆様より、実行委員がチカラをいただき、今後の励みとなりました。心より感謝申し上げます。

さて、第 68 回大会のテーマは「地域と連携した学校保健活動の推進」でした。午前は畿央大学健康科学部 根津智子先生による教育講演「学校保健と地域保健の連携」を、午後は国立成育医療研究センター遺伝診療科 小須賀基通先生による特別講演「ムコ多糖症とは～症状と治療について～」を開催しました。ご参加いただいた皆様からは、「専門的な内容にもかかわらず、大変わかりやすい講演で、学校と関係機関が連携を密にし、取り組んでいく必要性を感じた。」という感想をいただいております。

また、シンポジウムは、「学校と地域との連携」をキーワードに学校保健活動の中心となって日々お取り組みをいただいている学校医、学校長、養護教諭、栄養教諭の先生方より、連携の実際を具体的に紹介していただきました。その後の討議より、子供たちの現代的な健康問題の解決にあたっては、学校長のリーダーシップによる学校と地域の連携強化や学校医等の専門的な助言、養護教諭や栄養教諭を中心とした組織的な学校保健活動の推進が重要であることが再確認できました。

一般演題発表では、「養育・支援」「性教育」「大学教育」「食育・歯科保健」「COVID-19」に関する 18 題の研究発表があり、座長の先生方の細やかな心配りによる進行のもと活発な質疑応答が行われました。また、今年度は 1 名の方に近畿学校保健学会奨励賞を授与いたしました。受賞された方の今後のご発展を祈念するとともに、若い会員の皆様が本学会で研究の成果を多数ご発表されることを期待しております。

第 68 回大会では皆様と対面交流はできませんでしたが、学校保健の発展に寄せる思いを共有し、人とのつながりを実感させていただく貴重な機会をいただけたことに感謝申し上げます。

最後に、本学会を開催するにあたりご支援いただきました奈良県教育委員会、香芝市教育委員会、広陵町教育委員会、奈良県医師会、奈良県歯科医師会、奈良県薬剤師会、奈良県学校保健会、奈良県学校給食会、BioMarin Pharmaceutical Japan 株式会社、畿央大学をはじめとする諸団体の皆様、実行委員及びスタッフの皆様に厚くお礼申し上げます。

2. 教育講演報告

「学校保健と地域保健の連携」

講師：根津智子（畿央大学健康科学部教授）

報告者：喜多絹子（奈良県学校保健会）

教育講演では、根津智子先生より保健所の役割を中心に新型コロナウイルス感染症対応や学校保健との連携についてご講演をいただいた。保健所は、地域保健法により、地域保健の広域的、専門的な技術拠点として位置づけられており、医師、獣医師、薬剤師、保健師等の専門職が業務（精神保健・感染症・難病・小児慢性特定疾患等）を行っている。一方、保健センターは、身近な対人サービスを総合的に行う拠点として地域的、一般的な業務（乳幼児検診・予防接種・がん検診・特定健診等）を行っているなど業務の違いについて説明された。

また、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止に関しては、保健所は、感染症法に基づく対応と科学的知見に基づく対応、疫学情報（時間・場所・人のデータ等）に基づく対応を行っている。

学校保健との連携においては、平時の連携を密にすることが重要で、そのためには、管轄保健所について知り、保健所や都道府県等が実施する研修会（がん教育・たばこ対策・食育・歯科保健等）に積極的に参加することなどが連携のきっかけになる。さらに、感染症発生時には、学校は法に基づく対応に協力し、保健所等が科学的根拠に基づく対応を実施していることを理解し、役割分担（患者対応は保健所、その他の児童生徒や教職員への対応は学校になることが多い）を明確に対応することや、個人情報保護と同時に人権に配慮しながら必要に応じた情報公開を行うことが必要である。学校や園での感染症対策が子供だけでなく、地域の健康・安全を守ることを強調された。

講演後には、学校保健委員会における保健所の役割や学校との連携の在り方、外部講師として保健所の専門職員を派遣する場合の留意事項などの質疑応答があった。教育講演により学校保健と地域保健と連携の重要性を改めて考える機会となった。

3. 一般演題報告

A 会場

<養育・支援>

座長：竹端佑介（大阪国際大学）

A-1 特別養子縁組制度と縁組後の支援について

発表者：古川恵美 他

本研究では特別養子縁組制度と縁組後の支援について整理し、学校保健の視点から検討された。2020年4月より民法の一部改正により特別養子縁組における制度の変更点について具体的に示され、さらに学校教育における「命の授業」や「生き立ちの授業」などの保健教育およびその他の授業での配慮について考察された。今後は、学校保健においてより具体的かつ効果的な取り組みに向けた事例研究がなされ、配慮や真実告知等に関して検討がなされることを期待したい。

A-2 要支援児童を疑う子どもへの多職種連携の実践

発表者：古山美穂

本研究では要保護・要支援の必要性のある生徒に対して、多職種間の円滑な連携に関する要因について検討された。具体的には特定のケースに関して、ケースに関わった養護教諭や助産師からの半構造化面接により収集されたデータが自己決定理論（SDT: Deri&Rian, 1985, 2002）の観点から分析された。円滑な連携に関する要因として、[養護教諭と助産師の熟練スキル] [顔が見える場の存在] 等が挙げられた。今後は、本研究で抽出された要因の関連を具体的にすることで、より有効な多職種連携のあり方を明らかにされることを期待したい。

<性教育>

座長：吉村知容（奈良県教育委員会事務局）

A-3 学校における性に関する教育の進め方

－WYSH 教育の取り組み－

発表者：大西祐子

WYSH 教育を活用することにより、事前調査

を実施し、生徒の実態を把握することで、生徒が自分事として性教育に取り組む割合が高い結果となったことは成果であるといえる。また、質疑応答では、保健体育科教員や他職種との連携は必要不可欠であること、その一方で、保健体育科の時間だけでは性教育を充実させるには限界があるため、今後は他教科との連携により、継続的な性教育の実現に繋がるのが共通理解された。継続的な性教育の実践についても、参加者同士が情報共有されることが期待される。

A-4 知的障害のある児童生徒に対する包括的性教育の展開に向けて－卒業生と教師へのインタビュー調査より－

発表者：鶴岡尚子 他

近年、包括的性教育の充実・推進が取り上げられている中、知的障害児に対する性教育は未だ見過ごされていることが課題としてあげられた。今後、まずは職員研修などの機会を通して、教職員が性教育に関する理解を深め、実践できる指導力を身に付けることが重要であると共通理解が図られた。また、特別支援学校の特性ともいえるカリキュラムの柔軟性を活かし、保健体育科や国語科など、教科横断的なカリキュラムの整備と、更に教科に留まらず、学校生活全般での実践が期待される。

A-5 学校現場における性の多様性への意識 －公立小中学校教員への実態調査結果より 第2報－

発表者：田中成子 他

近年、性的マイノリティの児童生徒への配慮や支援が整備されており、制服や名簿、呼び方に関して取り組んでいる学校は増加傾向にある結果が得られた。一方、性の多様性（ここでは、「性的指向・性自認」「性的マイノリティ」という表現を含んだ多様なセクシュアリティと定義）を授業で取り上げている小中学校の教員は過渡期と言える。その中でも、助産師という外部講師と連携し、性教育に取り組んだ学校はより具体的な配慮や支援体制の充実に繋がっていることがあげられる。

A-6 外部講師による学校における性教育で期待されるテーマー公立小中学校教員への実態調査結果より－

発表者：田中成子 他

性教育を実践するにあたり、医療従事者等の外部講師に対して、性の多様性に関する内容が大きく期待されており、これらを含めたカリキュラムの作成は学校の課題の1つと言える。しかし、カリキュラムの作成の方法が分からなかったり、時間がかかったりするため、実際に必要と考えていても、作成にまで至らない実情となっている。そこで、まずは学校生活全般での関わり方などを重要視しながら実践することの重要性が共通理解された。

B 会場

<大学教育>

座長：大川尚子（京都女子大学）

B-1 養護教諭養成課程における効果的な看護臨床実習カンファレンスの検討

発表者：毛利春美 他

養護教諭養成課程における学外実習である看護臨床実習カンファレンスの学びの現状を明らかにし、今後の看護臨床実習の内容や指導方法を考察し、カンファレンスでの指導のあり方を検討するための基礎的資料とすることを目的に、看護臨床実習最終カンファレンスに参加した教員を対象に質的調査をされた報告であった。カンファレンスを授業の一つと位置付け、指導案を作成し、教員による運営を展開したことの成果が示された。この研究成果を生かして、さらに看護臨床実習の学びを深めていただきたい。

B-2 養護教諭の養成段階における「ICT活用指導力」育成を目指した取組

発表者：岩崎保之 他

養護教諭版「ICT活用指導力」チェックリストを作成したり、その育成カリキュラムを開発したりするための基礎資料を得ることを目的として、授業と課外活動を連動させた取組を試行的に実施した結果を報告された。小中学校な

どの教室を模した ICT 環境を整備するとともに、それを活用した保健教育の模擬授業を指導することで、養護教諭を目指す学生の「ICT 活用指導力」が向上する可能性が示唆され、学外の専門組織や専門家と連携・協働したり、学校で ICT 機器を活用している授業などを見学したりすることで、学生の ICT 機器活用意識がより一層高まることも観察された。今後も継続して取り組んでいただきたい。

B-3 教員志望大学生を対象にしたキャリア教育に関する実践事例の検証

発表者：八木利津子

大学生のキャリア形成に関わる高等教育プログラムの充実に向けて、特別支援学校の高校生との交流を通して活動内容や教育現場の現状を把握することで、効果的なキャリア教育支援の在り方やキャリア意識の変化の有無について事例検証された。大学生は、体験的学びから『自分』の適性や個性と、将来像や生活の選択肢を思考、目的意識に派生すると考察された。今後もさらなる大学生のボランティア活動や地域貢献を意図したフィールドワーク体験の機会を増やしていけることを期待する。

B-4 大学新入生の自己効力感と健康意識について

発表者：竹端佑介 他

大学新入生を対象に個人の心理的特性を示す指標として自己効力感を用いて、健康意識や健康知識との関係性について検討を試みた結果を報告された。健康について「かなり関心がある」と回答した学生は自己効力感が有意に高かったことから、これらの学生は自身が健康行動を行っているという意識があり、その健康行動は正しい知識を基にした正しい行動であると考えられ、健康意識の低い学生は健康知識の正答数が低く、自己効力感も低いことから健康行動に対する行動変容を促すことが難しい傾向にあると推察された。健康意識の低い学生に対しては、今後は行動変容を促すことを意図した健康教育が重要ではないかと報告され、引き続き、その具体

的な方策を検討していただきたい。

<食育・歯科保健>

座長：大坪昌子（奈良県教育委員会事務局）

B-5 子どもたちの食べる力を育てるために

発表者：大勝千歌

知的障害をもつ児童生徒が生涯にわたって楽しく安全に食事をするための「食べる力」を身につけるため、栄養教諭が担任と連携し効果的な支援についての検討がなされた。個々の実態と課題を把握するため、摂食指導に関しての研修会を定期的に開催したり、給食時の様子を定期的に動画撮影し観察したりすることで、必要な支援が明確化され、個別の給食指導が行えるようになるという実践事例の報告であった。

B-6 A 小学校における 10 年間の学校保健統計によるう歯の評価

発表者：熊田晃子 他

10 年間の学校保健統計における「う歯率」「処置完了率」「未処置率」について養護教諭が全国及び学年別に比較検証し、その結果から学校における歯科保健活動が治療の促進に影響を与えているのではないかと推察した。また、個別及び歯の発育に応じた歯磨きの指導や 3 歳児のう歯率が 1 年生の状況と関連があることから地域保健センター等と連携・協働した取組が必要と示された。今後は、検診のデータ管理の工夫を検討していきたいとのことで、さらなる進展を期待する。

C 会場

<運動・安全>

座長：笠次良爾（奈良教育大学）

C-1 中学生における伸張一短縮サイクル動作遂行能力の経年変化

発表者：國井洸樹 他

本発表は、伸張一短縮サイクル（以下 SSC）能力に関して、中学生年代の男女 59 名を対象として縦断調査を行った貴重な報告である。SSC

能力に関する評価はリバウンドジャンプ (RJ) 指数と垂直跳を評価し、握力、身長、体重の経年変化との関連を見たところ、男女ともに RJ 指数と垂直跳は 3 年続けて増大せず、垂直跳は 3 年目に低下していた。身長、体重は 3 年続けて増大していたことから、RJ 指数や垂直跳は発育パターンとは異なる発達を示し、形態的要因以外の影響を受けている可能性が考えられた。また男女別でも異なる傾向を示し、SSC 能力の発達には性差もある可能性が示唆された。このような成長期の SSC 能力縦断調査は非常に貴重であり、Growth Spurt との関連を見るとさらに興味深い結果が出るのではないかと思われた。

C-2 教員養成系大学 1 年生入学時の防災教育に関する意識調査

発表者：山野遼太郎 他

本発表では教員養成系大学 1 年生の防災教育に関する意欲と得意分野・苦手分野について調査した結果を報告された。その結果、防災教育に関する意識は高く、共助に関する指導については自信を持つ学生が多かったが、発災時の行動や災害に関する知識の指導については自信を持つ学生が少ないという結果であった。大学における防災教育を考えるヒントになる調査結果であり、今後のこの大学における防災教育の展開が期待される。

C-3 学校管理下における死亡の状況－2009～2018 年と 1989～1998 年の比較－

発表者：長谷川ちゆ子 他

本発表は、学校の管理下における死亡事故の傾向について、2009 年から 2018 年の 10 年間と、1989 年から 1998 年の 10 年間を比較した貴重な報告である。死亡事故発生率は小中高いずれの校種においても前者の方が少なかったが、事故原因を見ると前者で割合が増えていたのが中高生の学校外の高所、特に自宅マンションからの転落であり、また「学校での出来事による」という項目が新たに加わっていた。記載内容に限界があり詳細の分析は困難であるものの、心理的負荷の増大が影響している可能性が示唆さ

れると言うことは、コロナ禍における現状を踏まえて考えさせられる発表であった。

<COVID-19>

座長：辻井啓之（奈良教育大学）

C-4 新型コロナウイルス禍における大学生のストレスとコーピング

発表者：宮慶美恵子

COVID-19 のパンデミックにより、2020 年度、大学生は非対面授業を余儀なくされた。この状況下、大学生のストレス、健康状態、及び対処方略尺度 24 項目（神村ら）の調査を、オンデマンドによる質問紙により行い、有効回答 58 名を対象に分析した。ストレスの原因として多かったのは、「大学の課題が多いこと」「外出できにくいこと」であり、ストレスのある学生は「カタルシス」（抑圧されていた感情の解放）（ $p=0.01$ ）や、「情報収集」（ $p=0.04$ ）といった方法によってストレスにコーピング（対処）していることがわかった。カタルシスの内容について、もう少し質疑応答をしたかったが少し時間が足りなかった。何にせよ、生活が大きく変化してストレスが増加するのは当然であるが、ストレスマネジメントの重要性は明らかであった。

C-5 大学新入生のライフスキルと大学適応感について－新型コロナウイルス（COVID-19）感染症前後の比較－

発表者：高山昌子 他

本研究は、大学新入生を対象にライフスキルと大学適応感について調査し、COVID-19 感染症拡大前の新入生と比較検討を行ったものである。対象者は大阪府下にある健康スポーツ系学科に所属し、調査協力の得られた新入生 100 名（男 59 名、女 41 名；2021 年度生）であり、比較対照となった 2019 年度入学生 82 名は（男 54 名、女 28 名；2019 年度生）であった。生活習慣として、部活動所属の有無、アルバイト実施の有無について調査し、心理的尺度として、ライフスキルでは島本・石井（2006）が作成した日常生活スキル尺度（大学生版）24 項目（4 件法）、大

学生活への適応では大久保（2005）による青年用適応感尺度の各因子の上位3項目計12の質問項目（5件法）を用いている。ライフスキル得点、大学適応感得点双方において2021年度生の得点が2019年度生より有意に高くなっていた。この理由についてはまだ推論の段階だが、2020年度生ではどうであるか、かなり興味深い。

C-6 緊急事態宣言発出時における就学前施設休園時の子どもの遊びに対する保護者の対応について

発表者：玉井久実代 他

本研究では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言発出に伴う就学前施設における休園時に、家庭での子どもの遊びに対する保護者の対応において、困った点および工夫していた点を検討している。2020年7月、大阪府にある認定こども園（1園）の4・5歳児クラスの園児180名を対象に、園児の保護者に質問紙調査を実施し、園児を通じて質問紙の配布と回収を行った結果、145票（回収率80.6%）が回収された。緊急事態宣言発出時における就学前施設休園時の子どもの遊びに対する困り事は、一定の見解が得られ、空間と仲間が制限されたことによる影響が大きかった。具体的には、スクリーンタイムが増えることや体を動かす遊びが少ないあるいはできないこと、毎日子どもと遊んであげる大変さや遊んであげられない大変さ等が困り事として明らかになった。就学前施設の重要性が再認識されたと思われる。

4. 特別講演報告

「ムコ多糖症とは～症状と治療について～」

講師：小須賀基通（国立成育医療研究センター 遺伝診療科診療部長）

報告者：山中淳代（奈良県学校給食栄養研究会）

年間15～20名程度の新規患者の確認という稀ではあるが必ず存在する疾患「ムコ多糖症について」国立成育医療研究センター遺伝診療科診療部長 小須賀基通先生に特別講演としてリモート登壇いただいた。

ムコ多糖症は先天性代謝異常のライソゾーム病のひとつで、ムコ多糖の分解に必要な酵素が生まれつき足りず、全身の細胞にムコ多糖が蓄積してゆっくりと少しずつ症状が進行していく疾患である。軽症な場合は症状が進行してから気付くことが少なく、症状がはっきりしてくる学童期に重症化することがあるといわれている。講演では、ムコ多糖症について知り、「何か違うのではないか」「どこことなく違うのではないか」とまず疑うことが最も重要であり、「知らなければ疑うことが出来ない」そして、疑うことが診断に結び付き、早期発見・早期治療が何よりも重要であることを繰り返し述べられた。

学童期の児童と共に過ごしている私たち学校関係者が、まずは児童の様子を見つめ直すことが早期発見への最初の一步であることが確認された。

5. シンポジウム報告

「地域と連携した学校保健活動の推進」

コーディネーター：高田恵美子（畿央大学）

報告者：對間裕子（白鳳短期大学）

「地域と連携した学校保健活動の推進 学校医の立場から」

シンポジスト：高橋素生

（奈良県医師会 学校医）

奈良県医師会では、食物アレルギー・アナフィラキシー用の学校生活管理指導表を記載するための「食物アレルギー問診票」と「エクセル問診票」のソフトと成長曲線、肥満度曲線を作成できる学校健診用のエクセルソフト「学校健診プログラム」を独自に作成している。「食物アレルギー問診票」と「エクセル問診票」は、エクセルソフトに必要な事項を入力するだけで、これまでに多大な時間を要していた学校生活管理指導表の作成、データの保存、集計処理をたやすく行うことができるようになった。「学校健診プログラム」は養護教諭、学校医が成長曲線と肥満度曲線を即座に作成でき、低身長、高身長、成長速度の異常を早期に発見することが可能である。小児肥満は生活習慣病の予備軍であるといえ、学校で

の栄養指導が重要であり、肥満児用のエネルギー目標量がプログラムに組み込まれた肥満度曲線を活用することで、エネルギー供給量や体重別運動量、食物バランスについて、栄養教諭による個別指導に活用することができる。これらのプログラムは奈良県医師会のホームページよりダウンロードできるため、他府県において学校保健活動のツールとして利用して欲しいと提言された。

「地域と共に子どもたちの健康を守る！」

シンポジスト：檜垣志保
(奈良市立朱雀小学校 校長)

コロナ禍における学校では、子ども達の健康を守るために新しい生活様式が始まり、規制の多い学校生活を余儀なくされた。感染予防対策のため教職員や子ども達の疲弊度が増していく中、規制のある生活でも、感染拡大防止の徹底を図り、学校、家庭、地域が連携して様々な工夫をしながら、子ども達の体験活動の実施を検討した。地域ボランティアによる支援や地域と連携した行事により、学校だけでは実施不可能な行事が地域のマンパワーにより可能となり、子ども達が地域に支えられ、見守られていることを感じることができ、心の安定や自尊感情を高めることにつながった。課題としては、学校と地域で共有できていない部分があるため、校長の仕事として地域と学校との橋渡しが大切であり、今後も子どもたちが安心・安全に活動できる学校経営を進めていくことが提言された。

「コミュニティ・スクールにおける学校保健活動の推進」

シンポジスト：向井洋子
(香芝市立二上小学校 養護教諭)

平成24年度に二上コミュニティが発足され、児童の学力向上、生活力向上、健康力向上を目指したプロジェクトを行っている。教職員、保護者、地域住民で構成され、児童の実態や学校の様子を交流し、課題解決に向けての計画や取り組み、意見交換、情報交流など、地域に根付いた活動を行っている。養護教諭は健康力向上プロジェク

トの食育健康部に所属しており、学校保健委員会を活用して、性の多様性や睡眠、がん教育など近年の多様な健康課題について専門家による講演を実施し、食物アレルギーの増加や重症化の対応として、養護教諭と栄養教諭が連携し、食物アレルギーのある児童が安心して学校生活を過ごせるように全教職員が正しい知識を持ち、誰もが的確な対応ができるよう、食物アレルギー研修を実施している。学校と地域が協働し、子ども達が自己実現、成長していくためのコミュニティ・スクールにおける具体的な取り組みについて報告された。

「家庭、地域と共に健康実践を育む食育」

シンポジスト：横地博子
(橿原市立畝傍東小学校 栄養教諭)

橿原市では、給食の献立における食塩相当量が摂取基準より多く、地場産物活用量が低いことが挙げられ、学校給食献立の改善、児童生徒の自己管理能力の育成、食育推進におけるサポート体制の充実を市全体の事業目標として設定した。学校給食献立の改善として、献立研究や減塩レシピの開発、調理従事者対象の研修会、塩分濃度を計測した味付けの標準化、関係部局や団体と連携した地産地消の取り組みを行った。児童生徒の自己管理能力の育成では、小中9年間の「食育プログラム」を開発し、様々な教科と関連した指導を学年別に展開した。家庭や地域への啓発は、家庭科の学習と関連させた家庭での調理実践課題や、PTA 料理教室、親子料理教室、食育講演会、交流給食などを開催し、家庭や地域への啓発を行った。食育だよりの発行、学校だよりのホームページの活用など児童の実態や学習内容を家庭と共有できるように積極的な発信を行った。取組みの結果、栄養士や調理従事者の意識が変化し、献立内容の改善や工夫の結果、食塩相当量が徐々に低下、地場産物使用割合が大幅に増加し改善がみられた。家庭や地域への積極的な発信により、事前事後アンケート結果から保護者や教職員の食育に対する意識が向上したことがわかった。今後は個別の家庭の課題に目

を向け、組織的に改善に取り組む必要性や児童、家庭の実態に応じて「食育プログラム」の見直しを行い、計画的・効果的な指導の継続を進めていくことが報告された。

シンポジウムまとめ

子どもの健康や安全を守るために、学校ですべての課題を解決していくには限界があるため、学校、家庭、地域、医療、福祉などコミュニティの枠を超えた連携を目指すことが重要である。学校保健活動を推進するにあたり、学校保健委員会が中心となって学校三師、教員、保護者、地域が協働し、子ども達の健康や安全について、それぞれの学校における課題を解決していくことにより、子ども達だけではなく、学校を取り巻く地域全体を元気にしていくことができるといえる。

6. 2021年度近畿学校保健学会奨励賞

選考委員会による審査の結果、次の者が2021年度近畿学校保健学会奨励賞として採択された。

受賞者：國井洸樹（天理大学）

演題：中学生における伸張－短縮サイクル動作
遂行能力の経年変化
（抄録はP.12に掲載）

受賞のことば

國井洸樹（天理大学）

初めに、この度は我々の研究を奨励賞に選出いただき、大変ありがたく御礼申し上げます。昨年度来、コロナ禍による極めて制限のある日常が続く、今日までに研究活動の滞ることも多々あり、且つ研究成果を発表する機会もほとんど得られませんでした。こういった情勢のなか学会を開催していただき、また研究についても評価していただき、誠にうれしく思います。この奨励賞受賞を支えに、今後も研究に励んでいきたいと存じます。

今回の学会では、テーマである「地域と連携した学校保健活動の推進」に通じる学びを得ることができました。一般演題では、様々な領域をご

専門とされる先生方から多くのアドバイスやご意見、ご質問をいただくなかで新たな研究のヒントやアイデアを得ることができ、非常に新鮮で有意義な機会となりました。特別公演では、小須賀基通先生によるムコ多糖症の症状や診断、治療について専門的かつ大変わかりやすいお話を拝聴することができました。またシンポジウムでは、地域と連携した学校保健活動の推進について、現職の方々の経験や取り組みを知ることのできる貴重な機会に恵まれました。学校保健活動を推進するにあたっては、教諭や学校医だけでなく地域と協力することによって、子どもたちの健康を守っていくことの大切さを実感しました。

最後になりましたが、例年のように対面での実施が困難な状況の中、本当に素晴らしいオンライン形式での学会を開催していただきました高田恵美子学会長、後和美朝幹事長はじめ学会開催・運営にお力を尽くしていただきました皆様に、改めまして衷心より御礼申し上げます。

7. 学会印象記

窪田友華（天川村立天川小中学校）

まず、Web開催という形で学会が開催されたことに深く感謝いたします。コロナ禍で多くの学会や研修会が中止になり、学ぶ機会があることのありがたさを感じながら拝聴しました。

私は栄養教諭として、学校では疾病予防の観点から子どもたちに食に関する指導を行っています。朝食摂取などの生活習慣は家庭の協力が不可欠です。指導の成果を感じることは難しいですが、今回本学会に参加して、その解決策として地域と連携するためのたくさんの助言を得られました。また、本校でもスマートフォンなどの使用による外遊びの減少により肥満傾向の児童生徒が増加しているため、成長曲線プログラムを指導に活用し、改善につなげていきたいと思いました。一方、特別講演ではムコ多糖症について新たな知識を得ました。

学会に参加すると、他分野の専門知識に触れ、自分の勉強不足な部分が多くあることを痛感します。また、新たな知識を得ることで、日々の職

務を違った視点から見直すことができる機会にもなります。特に、学校保健学会では養護教諭の先生方の研究に触れることができるため、方法や内容などとても勉強になりました。栄養教諭が行う食育についても、積極的な情報発信を行い、さらなる他分野の先生方との協働につなげていきたいです。

上村陽代 （香芝市立関屋小学校）

地元での開催と市内養護教諭仲間の発表の応援をかねて、本学会に初めて参加させていただきました。コロナ禍での開催ではありましたが、様々な立場の方々が学校保健と地域連携について、自らの取組を発表し、また討議されている姿

から短い時間ではありましたが、画面を通して十分に伝わってくるものがありました。大いに刺激を受け自分自身の今後の取組の参考になりました。

大会のテーマについてですが、家庭や地域の理解と協力を得ることは、難しい課題も含んでいます。学校だけが家庭にアプローチするのではなく、専門家や地域の身近な立場の方や実態研究結果などをまじえたアプローチ等、いろいろな力を借りることは大きな力になると思います。子どもと関わる者が、情報共有や連携をして、ともに子どもたちの育ちについて考えていく必要性を改めて感じました。



WEB 開催による第 68 回近畿学校保健学会の様子

2021 年度近畿学校保健学会奨励賞 抄録

中学生における伸張－短縮サイクル動作遂行能力の経年変化

國井洗樹¹⁾、寺田和史¹⁾、山本樹²⁾、宮井信行³⁾、内海みよ子⁴⁾、中谷敏昭¹⁾、宮下和久³⁾、有田幹雄⁵⁾

1) 天理大学、2) 天理大学大学院、3) 和歌山県立医科大学、

4) 東京医療保健大学、5) 角谷リハビリテーション病院

キーワード：若年者、ジャンプ、爆発的筋力、脱トレーニング、プライオメトリック

【背景】急な動作や多くのスポーツにおける瞬発力の発揮によって行われる動作時には、伸張－短縮サイクル (Stretch-shortening cycle: SSC) と呼ばれる筋・腱－神経の働きが生じる。SSC 動作の遂行能力 (以下、SSC 能力とする) は垂直跳、リバウンドジャンプ (Rebound jump: RJ) などの跳躍やスプリントの成績と関係する。また、SSC 動作の遂行は骨格筋の質を改善し、健康寿命を延伸させることが報告されていることなどから、あらゆる年代において SSC 能力を高めておくことは極めて重要である。

ただし、この SSC 能力についての中学生年代における縦断的な観察は少なく、追跡期間が1年を超えるような比較的長期の検討はほとんどみあたらない。そのため、この時期の SSC 能力の発達過程を明らかにできるような、成長の時期や発育スパートなどの発育速度を考慮し検討した研究は、散見されるにとどまる。

【目的】そこで本研究では、中学生年代における SSC 能力の発達過程ならびに身体的発育・発達の度合いや速度と SSC 能力の関係を明らかにするために、3年間にわたる縦断的調査を行った。

【方法】対象は、某中学校の1年生から3年生までの3年間にわたるデータが追跡できた男子30名、女子29名の計59名とした。

SSC 能力を代表する評価項目として、リバウンドジャンプ指数 (RJ 指数) と垂直跳を用いた。RJ 指数は、光学センサーを用いて接地時間、及び滞空時間から求めた跳躍高を測定し、跳躍高を接地時間で除して求めた。また、一般的な筋力として、握力を測定した。その他、体格として身長・体重についても測定した。RJ 指数と垂直跳の測定は、いずれも体育館の床上で行った。測定時期は毎年10月～11月とした。なお、本研究は、天理大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った。

【結果】まず、中学3年間の各項目の値の変化を観察した。男子では、RJ 指数については、1年時から2年時に有意に上昇、3年時では2年次と比べ低下したものの、1年時の値を上回った。垂直跳は1年時から2年時に有意に上昇したが、2年時から3年時には有意に低下した。握力はRJ 指数や垂直跳とは異なり、学年が進むにつれて有意に増加した。女子では、RJ 指数、

垂直跳は1年時から2年時には値が横ばいで変化せず、2年時から3年時に有意に低下した。握力は学年が進むにつれて緩やかに向上し、特に1年時から2年時には有意に上昇した。なお、身長と体重は、男女とも学年が進むにつれて有意に増加した。

次に、成長の速度が各項目の3年間の変化に与える影響をより詳細に検討するために、対象者を成長速度 (年間の身長増加量) の上位と下位の2群分け、各項目の比較を行った。2群 (群) と3年間 (時間) の2要因による反復測定二元配置分散分析を行ったところ、男子では、RJ 指数、垂直跳には交互作用がみられず、握力、身長、体重には交互作用が認められた。女子では、身長にのみ交互作用が認められた。

【考察】中学生の3年間の追跡調査から、男女ともにRJ 指数と垂直跳は3年間増大し続ける傾向になく、一方で、男女ともに身長と体重は3年間増加する傾向、握力は男子では3年間増大し、女子では2年目以降横ばいの傾向となった。したがって、男女ともに SSC 能力は、身長などの体格の変化につれて発達するわけではなく、体格や一般的な筋力とは独立して発達する可能性が示唆された。また、男女で変化の傾向の異なる部分があることから、中学生年代の SSC 能力の発達については、性差の存在する可能性が示された。

RJ 指数や垂直跳が3年目に低下していたことについては、以下のことが考えられた。本研究の対象者の83%は、課外活動で何らかの運動部あるいは競技スポーツのクラブチームに所属していることが調査により把握されており、且つ、それらの活動は3年時の7月で一斉に終了する。したがって、本研究において中学3年時にこれら SSC 能力に関する項目の値が低下する要因として、部活動などの特別な運動習慣が中止されることで、トレーニングにおける可逆性の原理が働き、測定時にはすでにその能力が減退し始めている可能性が考えられた。

【結語】中学生年代の SSC 能力は、体格や一般的な筋力などとは異なり成長に伴って発達するものではなく、その発達には運動トレーニングなどの身体活動がより強く影響を与えている可能性が示唆された。

2021 年度近畿学校保健学会**評議員会・総会 報告**

議題：1. 2020 年度事業報告

2. 2020 年度決算報告及び会計監査報告

3. 2021 年度予算案（事業計画）

4. 次期学会開催地及び会長

議決方法：Web投票

投票期日：2021年6月12日（土）23時59分まで

1. 2020 年度事業報告

1) 会員数

216 名（名誉会員 14 名を含む，2021 年 3 月 31 日現在）

2) 会議開催，学会通信など

・幹事会

2020 年 5 月 10 日 第 1 回近畿学校保健学会幹事会開催（Web 会議）

[2020 年 5 月 7 日 近畿学校保健学会 2019 年度会計監査（於：大阪国際大学）]

2020 年 9 月 27 日 第 2 回近畿学校保健学会幹事会開催（Web 会議）

2021 年 1 月 24 日 第 3 回近畿学校保健学会幹事会開催（Web 会議）

・常任幹事会

2020 年 4 月 20 日 近畿学校保健学会常任幹事会開催（Web 会議）

2020 年 8 月 25 日 近畿学校保健学会常任幹事会開催（Web 会議）

2020 年 12 月 24 日 近畿学校保健学会常任幹事会開催（Web 会議）

・年次学会，評議員会及び総会

2020 年 6 月 20 日 第 67 回近畿学校保健学会年次学会開催（誌上開催）

会長：楠本久美子（四天王寺大学）

2020 年 6 月 20 日 2020 年度評議員会及び総会開催（電磁的開催）

・学会奨励賞

誌上開催となったため，該当者無し

・学会通信

2020 年 6 月 12 日

近畿学校保健学会通信 No.156 発行

2020 年 10 月 20 日

近畿学校保健学会通信 No.157 発行

2021 年 3 月 5 日

近畿学校保健学会通信 No.158 発行

近畿学校保健学会会員数

2021 年 3 月 31 日現在

所属	名誉会員	評議員	一般会員	計
滋賀県	1	10	19	30
京都府	3	8	17	28
大阪府	4	17	39	60
兵庫県	2	17	35	54
奈良県	2	4	12	18
和歌山県	2	9	15	26
計	14	65	137	216

名誉会員名簿（14 名）

2021 年 6 月 19 日現在

年	氏名	所属
2004 年	大山 良徳	大阪
2010 年	勝野 眞吾	兵庫
2012 年	小西 博喜	京都
2012 年	寺田 光世	京都
2012 年	八木 保	京都
2014 年	大矢 紀昭	滋賀
2014 年	堀内 康生	大阪
2014 年	三野 耕	大阪
2015 年	山本 公弘	奈良
2016 年	藤本 正三	大阪
2017 年	武田 眞太郎	和歌山
2017 年	横尾 能範	兵庫
2017 年	北村 陽英	奈良
2019 年	松本 健治	和歌山

2. 2020 年度決算報告及び会計監査報告

【収入】				
	予算額	決算額	増減額	摘要
会費収入	600,000	672,000	72,000	会費@3,000円×224人
雑収入	0	1,060	1,060	
前年度繰越金	938,339	938,339	0	
合計	1,538,339	1,611,339	73,060	

【支出】				
	予算額	決算額	差額	摘要
印刷費	80,000	35,270	-44,730	学会通信 (No.156～158)
郵送費	100,000	99,365	-635	学会通信発送、振込手数料等
事務費	50,000	6,568	-43,432	学会通信発送封筒代等
人件費	50,000	0	-50,000	事務雇用費等
会議費	50,000	0	-50,000	常任幹事会、幹事会 (年3回)
2020年度研修セミナー	50,000	0	-50,000	手土産代等
役員選挙積立金	33,000	33,000	0	2022～2024年度役員選挙
年次学会補助金	150,000	150,000	0	奈良県・第68回事務局へ
ホームページ維持費	40,000	9,220	-30,780	サーバー・ドメイン年間契約料
予備費	935,339	0	-935,339	
小計	1,538,339	333,423	-1,204,916	
次年度繰越金	0	1,277,976	1,277,976	
合計	1,538,339	1,611,339	73,060	

【目的別預金】				
内訳	予算額	決算額	預金額	摘要
役員選挙積立金	33,000	33,000	66,000	2022～2024年度役員選挙

上記の通り相違ありません。

2021年5月7日

監事 毛利 啓美 監事 玉井 久実代 

3. 2021 年度予算案（事業計画）

【収入】				
内訳	予算額	前年予算額	増減額	摘要
会費収入	600,000	600,000	0	会費@3,000円×200人
役員選挙積立金	66,000	0	66,000	2022～2024年度役員選挙
雑収入	0	0	0	
前年度繰越金	1,277,976	938,339	339,637	
合計	1,943,976	1,538,339	405,637	

【支出】				
内訳	予算額	前年予算額	差額	摘要
印刷費	80,000	80,000	0	学会通信 (No.156～158)
郵送費	120,000	100,000	20,000	学会通信発送、振込手数料等
事務費	20,000	50,000	-30,000	学会通信発送封筒代
人件費	30,000	50,000	-20,000	事務雇用費等
会議費	30,000	50,000	-20,000	常任幹事会、幹事会 (年3回)
2021年度研修セミナー	50,000	50,000	0	2回開催予定
役員選挙積立金	0	33,000	-33,000	2022～2024年度役員選挙
役員選挙費	99,000	0	99,000	2022～2024年度役員選挙
年次学会補助金	200,000	150,000	50,000	滋賀県・第69回事務局へ
ホームページ維持費	40,000	40,000	0	サーバー・ドメイン年間契約料
予備費	1,274,976	935,339	339,637	
小計	1,943,976	1,538,339	405,637	
次年度繰越金	0	0	0	
合計	1,943,976	1,538,339	405,637	

【目的別預金】				
内訳	予算額	前年預金額	予定預金額	摘要
役員選挙積立金	-66,000	66,000	0	2022～2024年度役員選挙

4. 第 69 回近畿学校保健学会 開催地及び会長

次期学会開催地：滋賀県

会長：高野 知行（びわこ学園医療福祉センター野洲）

2021 年度

第 1 回近畿学校保健学会幹事会議事録

日 時：2021 年 5 月 9 日（日曜日）

15:00～17:00

場 所：Zoom による Web 開催

出席者：【幹事長】後和

【常任幹事】大川，西岡，宮井

【幹事】（滋賀）大平，高野

（京都）井上，藤原

（大阪）楠本，古角，白石，吉岡

（兵庫）鬼頭，中村

（奈良）笠次，高田

（和歌山）内海，森岡（計 18 名）

委任状：川畑，森脇，辻井（計 3 名）

監事：玉井

オブザーバー：上田，玉井

事務局：竹端

議事に先立ち，2021 年 4 月 11 日にご逝去されました元幹事である中谷 昭先生（享年 70 歳）を悼み，出席者全員で黙祷を捧げた。

議 題：

1. 第 68 回近畿学校保健学会の開催について

・開催方法について

年次学会長の高田幹事より資料をもとにプログラムの内容の説明があり，承認された。学会がオンライン開催となるため，発表者，参加者に対するマニュアルを記載するとともに，発表のリハーサル日を設けるとの報告がなされた。また，後和幹事長より，学会開催中の情報は適時 Twitter で情報提供されることが報告された。

・評議員会および総会の運営について

後和幹事長より，第 68 回近畿学校保健学会はオンライン開催となるため，評議員会・総会は電磁的方法で実施し，web 投票（Google フ

ォーム）による議決をとり，学会当日に結果を公表するとの説明があり，承認された。

2. 2020 年度事業報告，会計報告及び監査について

宮井常任幹事より，2020 年度事業報告について資料をもとに説明があり，承認された。なお，2020 年度の会議（幹事会及び常任幹事会）はいずれも Web 開催となったこと，第 67 回近畿学校保健学会（大阪大会）は誌上開催となり，2020 年度評議員会・総会については電磁的方法で実施されたことが報告された。

また，大川常任幹事より，2020 年度会計報告について資料をもとに説明があり，玉井監事より会計処理が適切に行われていた旨の報告がなされ，承認された。

3. 2021 年度事業計画及び予算案について

大川常任幹事より，2021 年度予算案について，資料をもとに説明がなされ，中村及び森岡幹事から 2022 年度役員選挙の実施にあたり，委員より【役員選挙積立金】及び【目的別預金】の記載が適正でないとの指摘があり，2021 年度予算案の「収入」と「支出」の一部記載について修正することで，承認された。

また，後和幹事長より，【年次学会補助金】の引き上げの提案があり，次年度開催地の滋賀県より【年次学会補助金】を 200,000 円とすることで承認された。

4. 名誉会員の推薦について

後和幹事長より，中谷昭先生（奈良教育大学名誉教授）が名誉会員として推薦されていたが，ご逝去に伴い，2021 年度の名誉会員推薦について候補者がいないことが報告された。

5. 次期年次学会（第 69 回近畿学校保健学会）開催地会長について

後和幹事長より，第 69 回近畿学校保健学会開催地の滋賀県から，学会長として高野知行先生（びわこ学園医療福祉センター）が推薦されることが説明され，承認された。また，高野次期年次学会長より挨拶があり，その中で開催方法についてはコロナウイルス感染状況をみて判断することが説明された。

6. 学会通信 No.159 について

後和幹事長より、学会通信 No.159（案）をもとに説明され、5月26日に発行することで承認された。

7. 役員選挙について

後和幹事長より、2022年度の役員選挙の投票方法について、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、電磁的方法で実施することが提案され、継続審議することとなった。

8. その他

・研修セミナーについて

西岡常任幹事より、2021年度の研修セミナーは2回（「研究」及び「学校保健」に関するセミナー）実施予定との報告がなされた。なお、第1回の研修セミナー「研究」をテーマとして、9月23日（祝）にオンラインで開催することが提案され、承認された。

報 告：

報告事項に関しては特になかった。

2021年度研修セミナー報告

日時：2021年9月23日（木曜日、祝日） 13時00分～15時40分

開催方法：Zoomによるオンライン開催

概要：研究方法上の3テーマ「研究計画の作成」「データ分析方法」「学会発表・論文投稿」について、参加者は、テーマ別に分かれて質疑応答や意見交換を行った。さらに、全体で、3テーマのミニレクチャーを受講し、ふり返った。

参加者：32名（会員：15名、非会員：17名）

活動内容及び講師（ミニレクチャー担当）

1. テーマ別グループワーク
2. ミニレクチャー「研究計画の作成」（講師：西岡伸紀）
3. ミニレクチャー「データ分析方法」（講師：竹端佑介）
4. ミニレクチャー「学会発表・論文投稿」（講師：藤原 寛）

※詳細については、学会通信 No.161 に掲載させていただきます。

（常任幹事 西岡伸紀）

編集後記

コロナ禍における2度目の秋となりました。各学校についても、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が出るたびに授業形式や行事等の変更があり翻弄されていることと思います。新型コロナウイルス感染症のパンデミックで世界は大きく変わり、今までとは異なる新たなライフスタイルとなっています。学校教育においても様々な影響をもたらしました。感染拡大防止のための臨時休業措置や感染リスクを考慮した学校生活と環境整備、オンライン化やデジタル化といった授業形態の転換などさまざまな形で教育活動への影響がみられています。

この度、本学会の研修セミナーも初めてZoomを使ってオンラインで開催しました。遠方の会員も含め、多くの方々にご参加いただき充実した研修セミナーとなりました。今後ともオンラインを活用した研修会を企画したいと考えています。ご期待ください。

（常任幹事 大川尚子）

月刊 健

好評発売中



■ 切り取ってすぐ使える ■

イラスト入り 大型カラーポスター！

■ カンタンに作れる ■

カラーの掲示物や教材を紹介！



大型カラーポスター

■ 保健教育の実践

■ 医学Q&A

■ 救急の知識

■ クイズ

■ 保健室の整理収納

■ 養護実践アイデア集

■ 研修会・講習会などのお知らせ

■ 誌面公開授業

使える・学べる
知識
が
満載

etc.

■ ほけんだよりや配布資料につかえる ■

読者だけがダウンロードできる
イラストが毎月200点以上！

■ 季節ごとの多彩なイラスト満載



イラスト集



ことば・話題集



全校種

ほけんだより

(株)日本学校保健研修社

『健』編集部

見本誌
無料
進呈中

tel. 075-325-5515

fax. 075-313-8788

mail. ken@school-health.co.jp

1年間購読料 10,800円

6カ月購読料 5,400円

(1冊定価 900円・消費税込)
前払制・送料は弊社負担

ホームページ

<https://www.school-health.jp/>

健